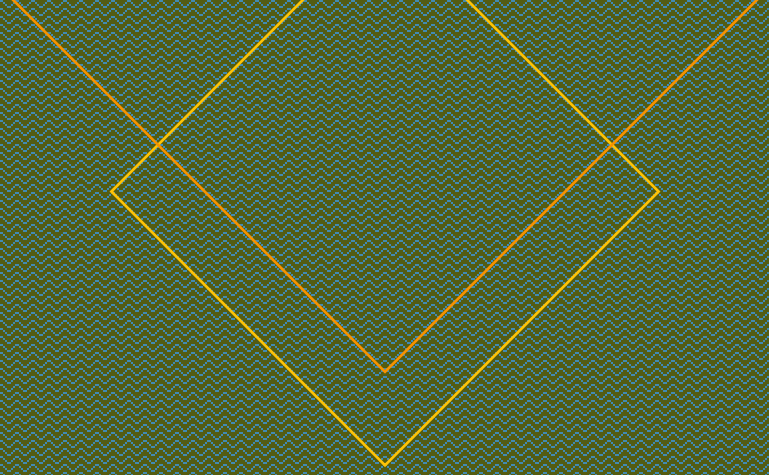




2020年7月実施 オンライン授業に関する アンケート（学生）

結果概要報告

京都ノートルダム女子大学 教務委員会

結果報告の流れ

I. 調査目的

調査の目的について

II. 調査方法

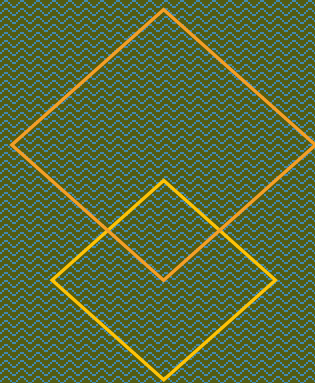
調査時期・方法・
対象者・調査項目
について

III. 調査結果

調査結果の概要を
説明。
特に1年生と上級
生（2年次以上）
を比較しながら報
告する。
項目によっては学
科ごとの結果も報
告する。

IV. 今後の授業に 向けて

調査結果より前期
授業について総括
し、後期授業に向
けての改善点につ
いて検討、提案を
行う。



I 調查目的

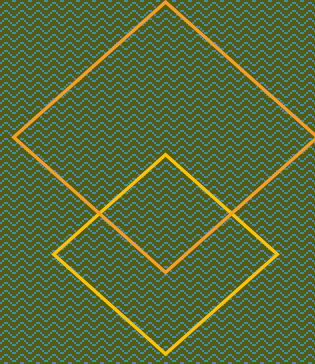
I. 調査目的

- 2020年度前期，本学では4月15日（水）よりオンライン授業を開始し（A期間），6月10日（水）よりB期間，7月8日（水）B'期間として一部授業は段階的に対面授業に移行した。

対応期間	時期
対応期間A（原則として面接授業を行わない期間）	4月15日～6月9日
対応期間B（3密を避けつつ徐々に対面授業へ戻していく期間）	6月10日～7月7日
対応期間B'（条件付きで通常授業に戻していく期間）	7月8日～8月4日

I. 調査目的

- 本学では、授業開始より約2週間経過した2020年4月末から5月にかけて、学生がどの様にオンライン授業に取り組んでいるのか、またオンライン授業の実施に対する不安や困っていることを把握し、今後のオンライン授業のあり方を検討するためアンケート調査を実施した。
- 本調査は、前期2回目の調査実施であり、その後のオンライン授業の評価や対応期間B以降、対面授業が一部開始されてからの実態を把握し、前期授業を総括することを目的に実施した。



Ⅱ 調査方法

Ⅱ．調査方法

- 1. 調査時期
- 2020年7月17日～7月31日
- 2. 調査方法
- Microsoft Formsによるオンライン調査を実施した。
- manabaやCampusmateを通じ，学部生にオンライン調査への回答を依頼した。
- 調査は成績には一切関係しないことを教示し，無記名で行った。
- 回答実施時間（平均）は，約16分であった。

Ⅱ．調査方法

- 3. 調査対象
- 本学学部生 606名（在学生の46.3%にあたる。1, 2年生については5割を超える回答率であった）。学年と学科の内訳は表1の通り。

表1 調査対象者内訳

	英語英文学科			国際日本文化学科			こども教育学科			心理学科心理学部			福祉生活デザイン学科 生活福祉文化学部			合計		
	回答数	在籍数	回答率	回答数	在籍数	回答率	回答数	在籍数	回答率	回答数	在籍数	回答率	回答数	在籍数	回答率	回答数	在籍数	回答率
1年生	59	100	59.0	48	72	66.7	35	79	44.3	59	111	53.2	50	67	74.6	251	429	58.5
2年生	45	90	50.0	28	48	58.3	29	50	58.0	40	78	51.3	24	50	48.0	166	316	52.5
3年生	23	79	29.1	28	53	52.8	15	65	23.1	23	62	37.1	24	38	63.2	113	297	38.0
4年生	24	78	30.8	12	37	32.4	6	45	13.3	18	70	25.7	16	37	43.2	76	267	28.5
合計	151	347	43.5	116	210	55.2	85	239	35.6	140	321	43.6	114	192	59.4	606	1309	46.3

Ⅱ. 調査方法

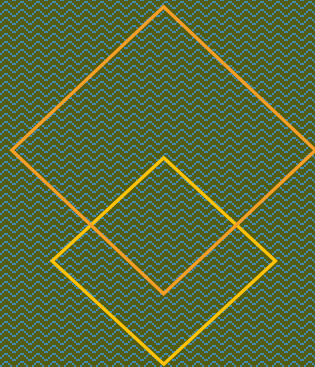
• 4-1. 調査項目

- 1. 学年
- 2. 所属学科
- 3. これまでのオンライン授業に対する全体としての「満足度」（5件法）
- 4. これまでのオンライン授業に対する全体としての「理解度」（5件法）
- 5. 全体として、どの位熱心にオンライン授業に取り組んだか（5件法）
- 6. どの媒体を利用してオンライン授業に臨んでいたか（複数回答）
- 7. オンライン授業の「通信環境」について
- 8. 現在の居住環境における、オンライン授業の「通信状態」について
- 9. 前期に受けたオンライン授業の形式（複数回答）
- 10. 最も学習効果を感じたオンライン授業の形式
- 11. オンライン授業では課題に対する先生の何らかのフィードバックがあったか
- 12. オンライン授業では「課題」や「振り返り」が提示されていたか

Ⅱ．調査方法

• 4-2. 調査項目

- 13.オンライン授業と対面授業を比較した場合の学習効果について
- 14. 後期の授業について，対面授業とオンライン授業，どちらの割合が多いことを望むか
- 15.前の質問で回答を選択した理由（自由記述）
- 16. これまでのオンライン授業で困ったこと（複数選択）
- 17. これまでのオンライン授業で良かったこと（複数回答）
- 18.前期の授業期間を振り返り，普段の生活スタイルに最も近いものはどれか
- 19.現在の授業履修状況
- 20.大学通学中あるいは大学でのコロナウィルス感染に関する不安の程度
- 21.オンライン授業で学習効果があったと感じること（自由記述）
- 22.オンライン授業で楽しく取り組めた授業，わかりやすかった授業
- 23.「対面授業」と「オンライン授業」が同時に行われている状況で困っていること（自由記述）



Ⅲ 調査結果

Ⅲ. 調査結果

・ 1-1. オンライン授業に対する満足度（4学年×5学科）

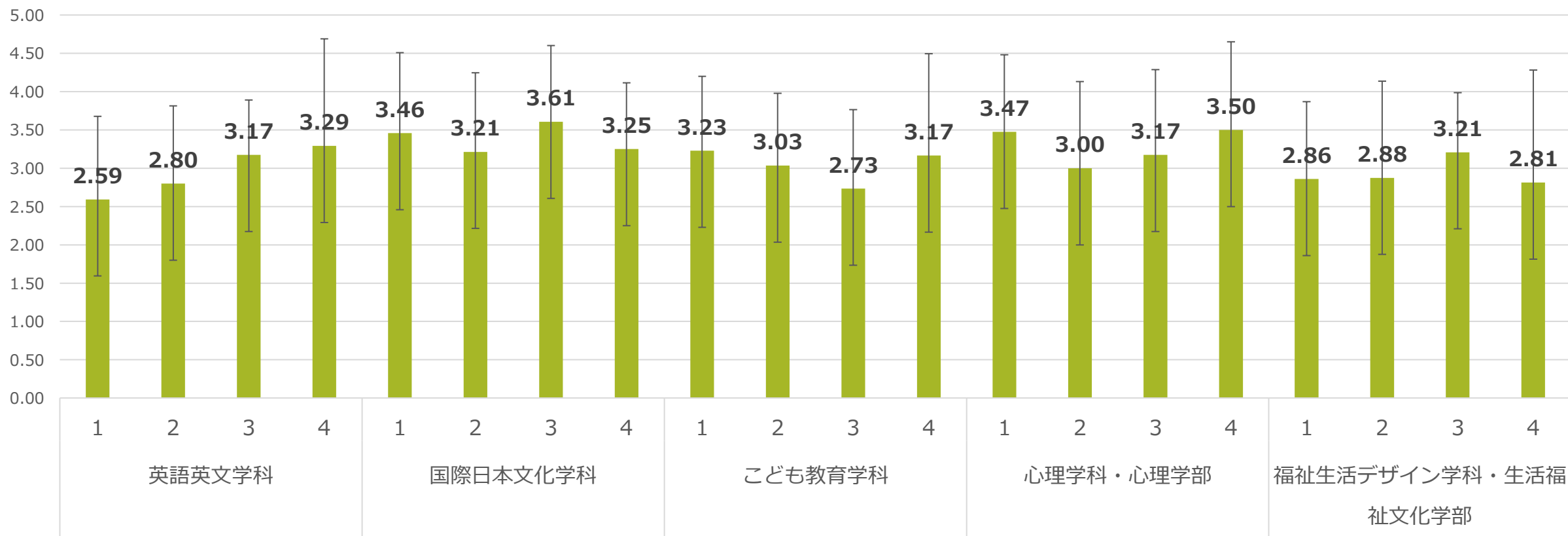


図1 オンライン授業に対する満足度（5件法）

回答者全体としては、平均＝3.11, SD＝1.085 参考: 5月平均＝3.09, SD＝1.081)

Ⅲ. 調査結果

・ 1-2. オンライン授業に対する満足度（新入生・上級生×5学科）

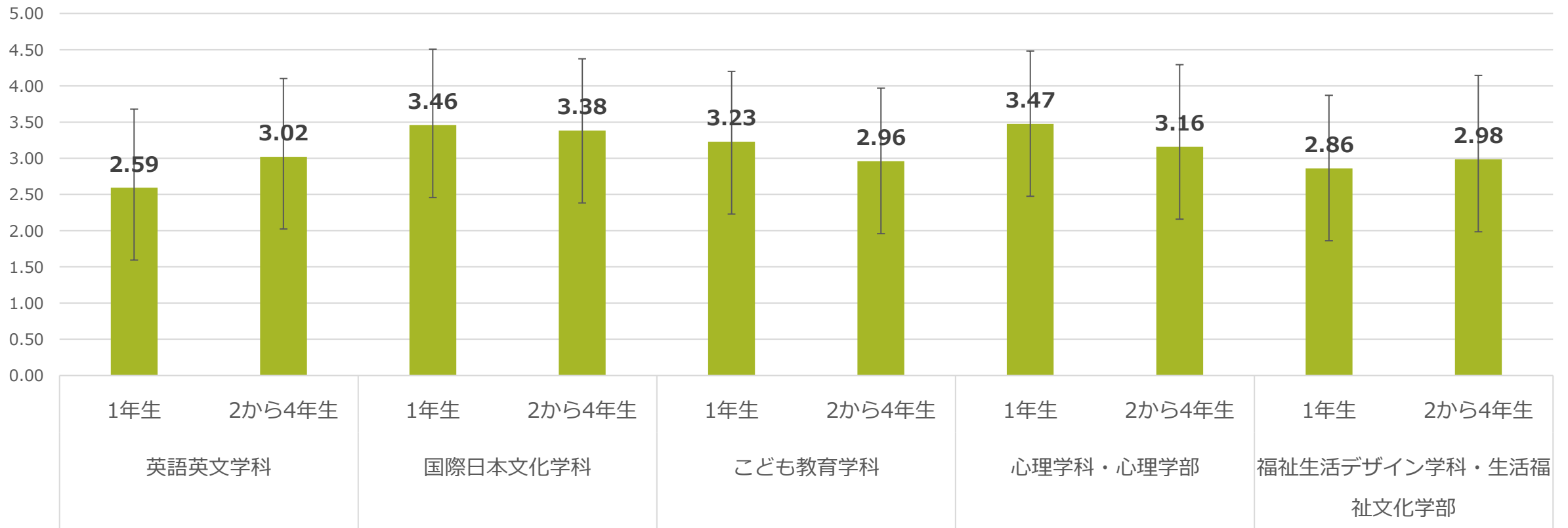


図2 オンライン授業に対する満足度（5件法）

満足度は, 1年生と2～4年生の間に有意な差はみられない。学科間には有意な差あり。

Ⅲ. 調査結果

・2-1. オンライン授業の理解度（4学年×5学科）

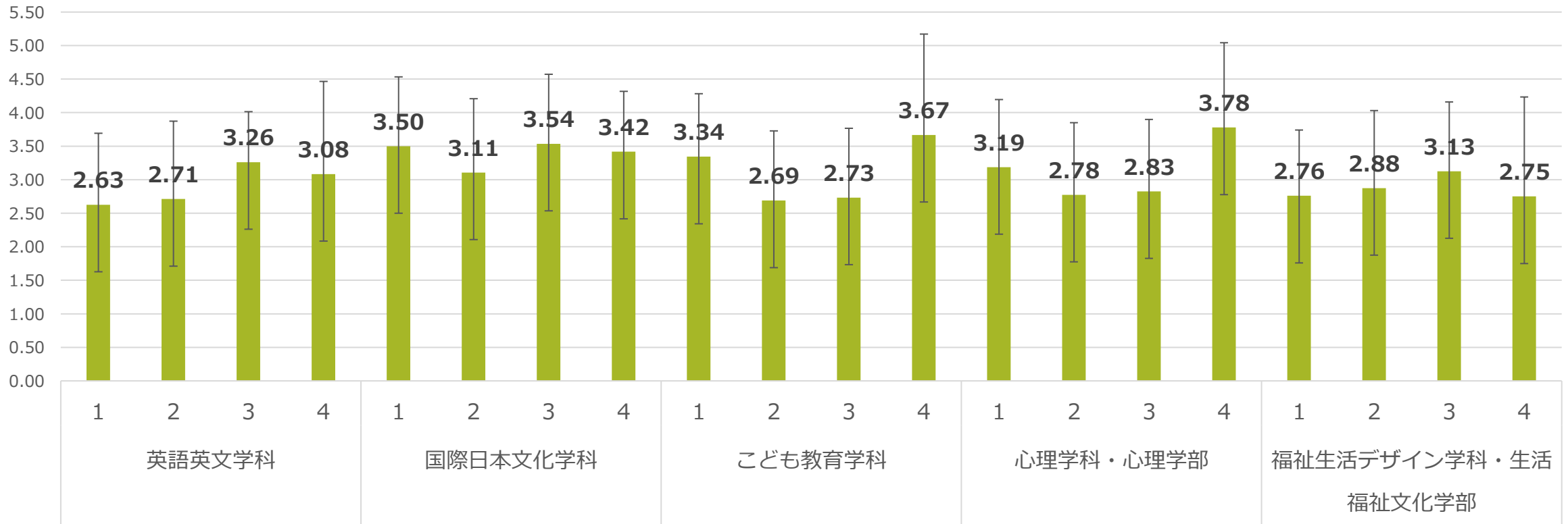


図3 オンライン授業の理解度（5件法）

全体としては、平均＝3.03, SD＝1.111 参考: 5月平均＝3.03, SD＝1.085)

Ⅲ. 調査結果

・ 2-2. オンライン授業の理解度（新入生・上級生×5学科）

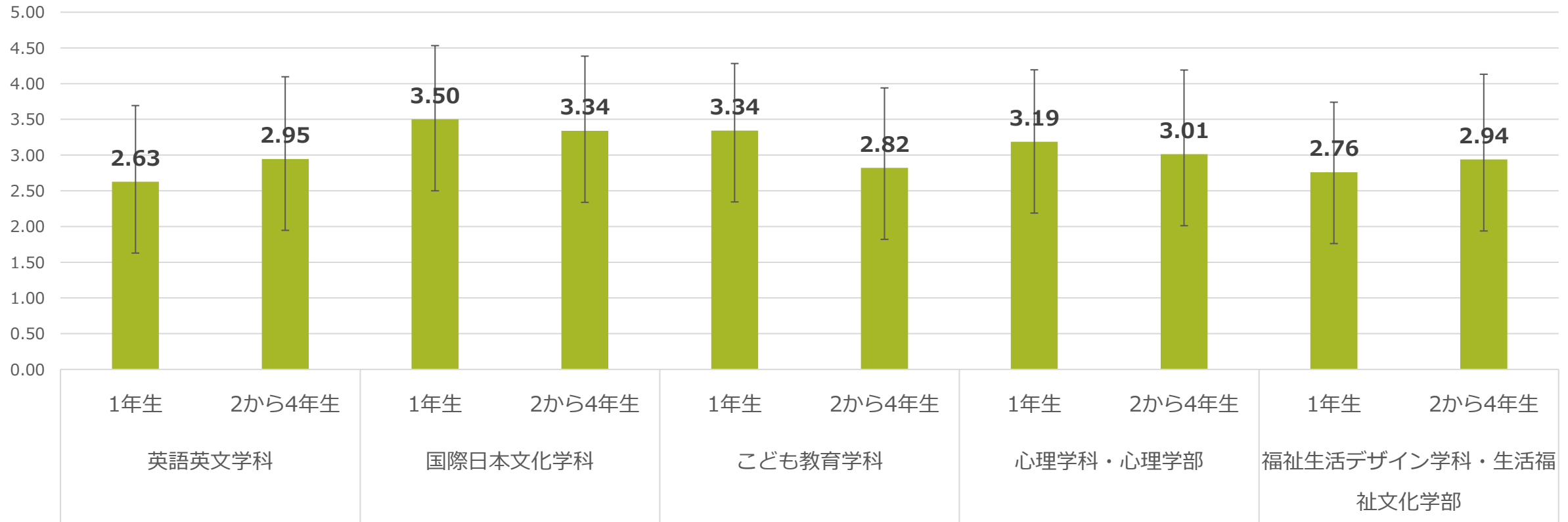


図4 オンライン授業の理解度（5件法）

理解度は、1年生と2～4年生の間に有意な差はみられない。学科間には有意差あり。

Ⅲ. 調査結果

・ 3-1. オンライン授業の取り組み程度（4学年×5学科）

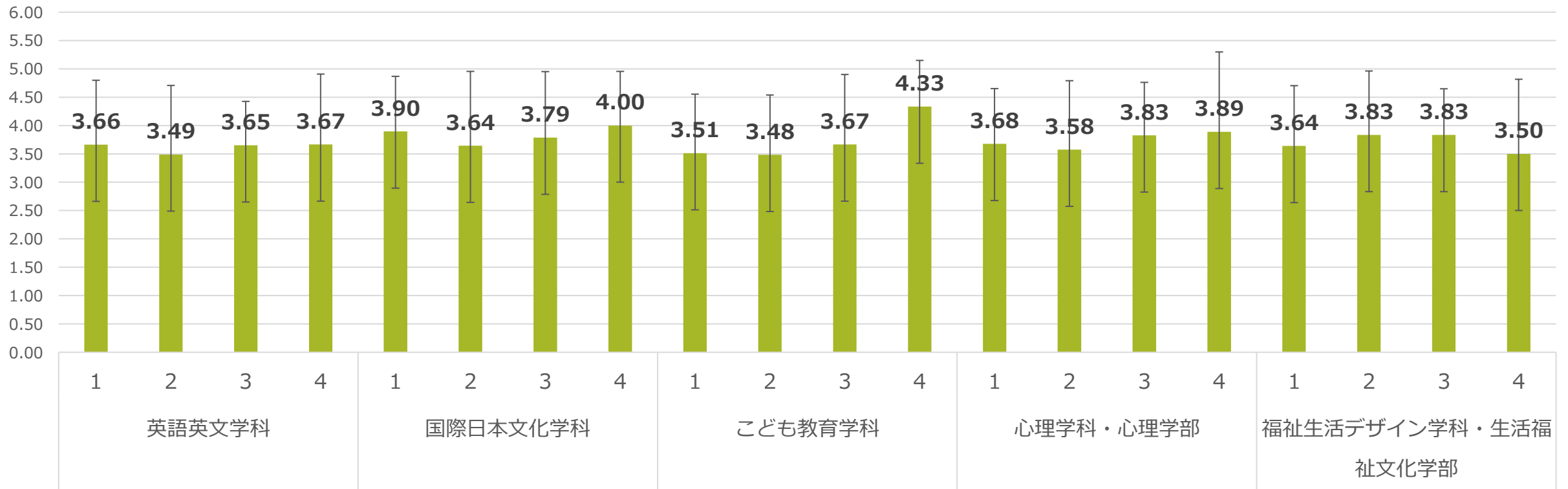


図5 オンライン授業の取り組み程度（5件法）

全体としては、平均＝3.68, SD＝1.095 5月は本項目なし

Ⅲ. 調査結果

・ 3-2. オンライン授業の取り組み程度（新入生・上級生×5学科）

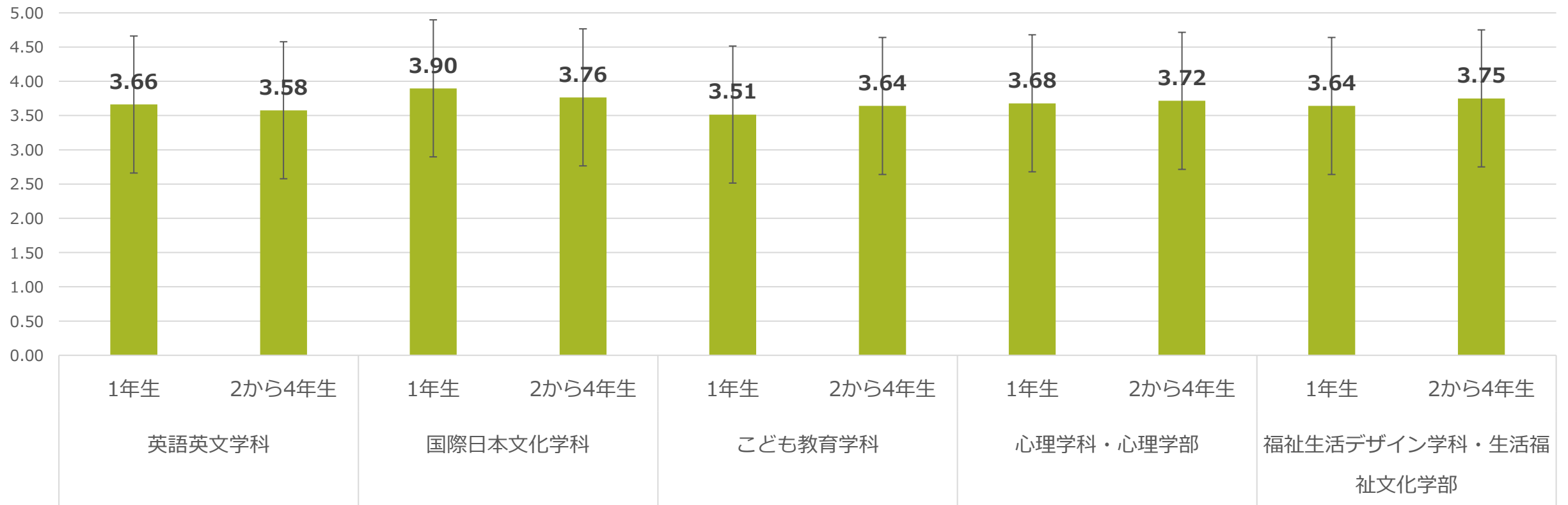


図6 オンライン授業の理解度（5件法）

学科, 学年ともに有意な差なし。

Ⅲ. 調査結果

・4. オンライン授業で利用していた媒体（複数回答）

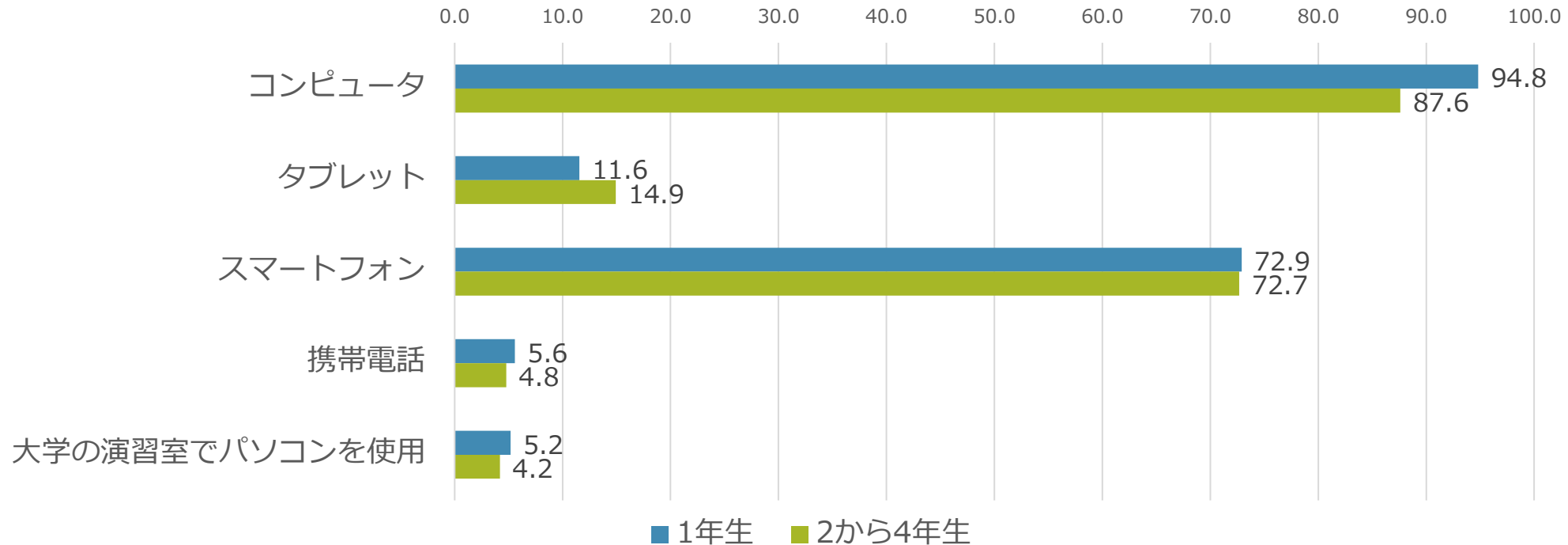


図7 オンライン授業で利用していた媒体（%）

コンピュータを利用している学生の割合が圧倒的に多いが、次にスマートフォンで授業を受けている学生の割合が多い。スマートフォンのみで授業を受けている学生も一定数みられた（今回の調査対象者では32名）。

Ⅲ. 調査結果

・ 5. オンライン授業の通信環境

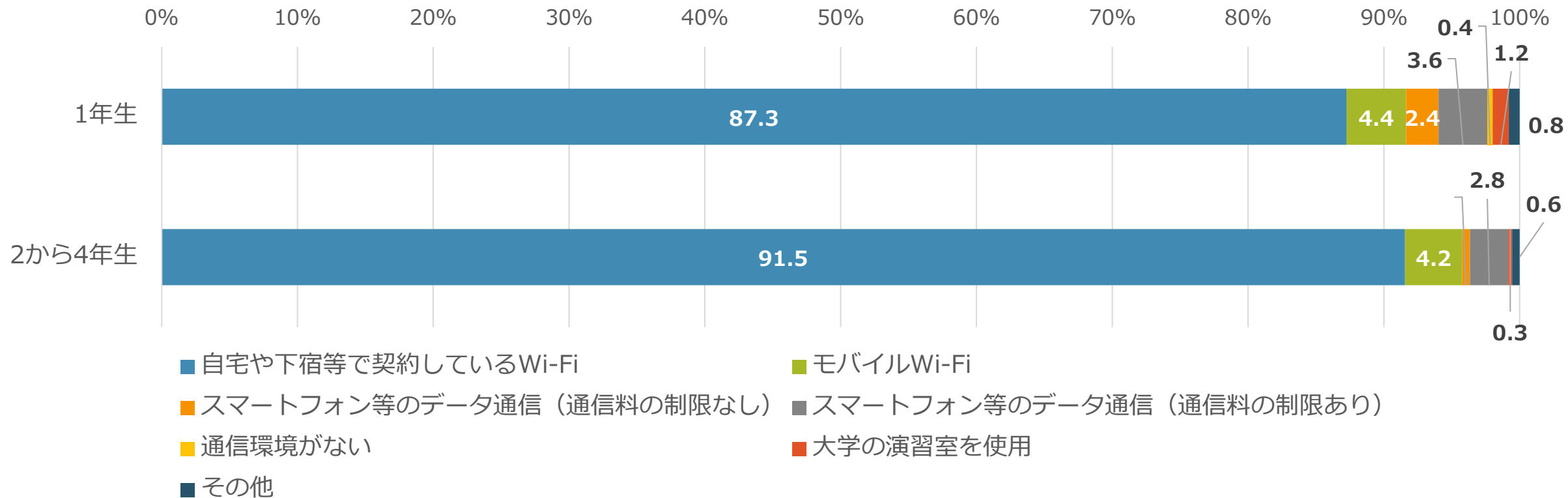


図8 通信環境（%）

いずれも約9割は自宅や下宿におけるWi-Fi環境が整っている状況であるが、通信料制限ありの学生も少数みられる。

Ⅲ. 調査結果

・6. 現在の居住環境における，オンライン授業の通信状態

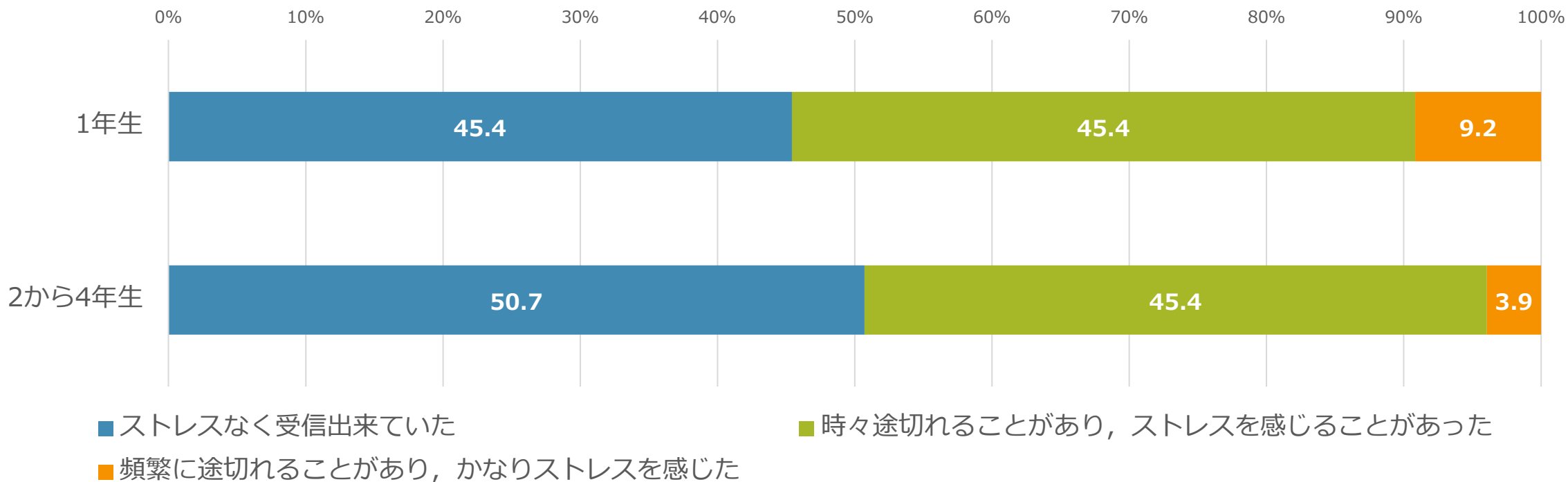
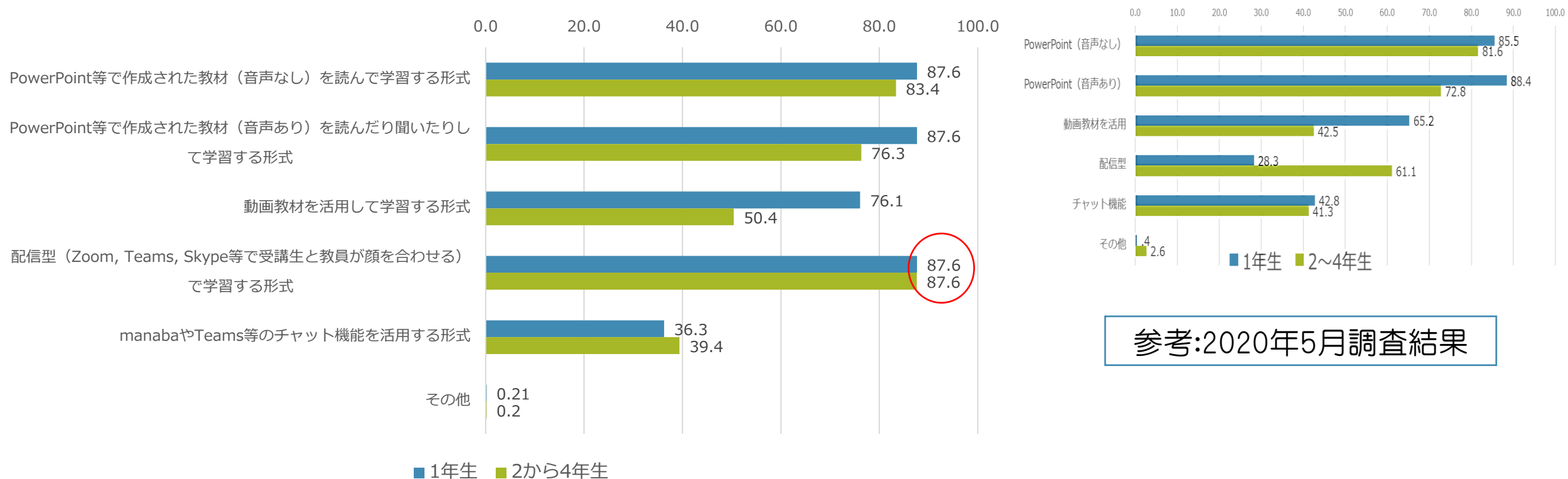


図9 通信状態 (%)

約半数はストレスなく受信出来ているが，時々通信が途切れると回答した者も多く，必ずしも万全の通信状況で受講していたわけではないことがうかがえる(対面授業が始まってからは，通学途中で視聴していた学生もいた様子である)。

Ⅲ. 調査結果

・ 7. 現在受けているオンライン授業の形式（複数回答）



参考:2020年5月調査結果

図10 オンライン授業の形式（%）

全体としては、PowerPoint（音声あり・なし）や配信型の授業が行われている割合が高い。5月と比較すると、「配信型で学習する形式」の割合が大きく上昇している。

Ⅲ. 調査結果

・ 8-1. 最も学習効果を感じたオンライン授業の形式

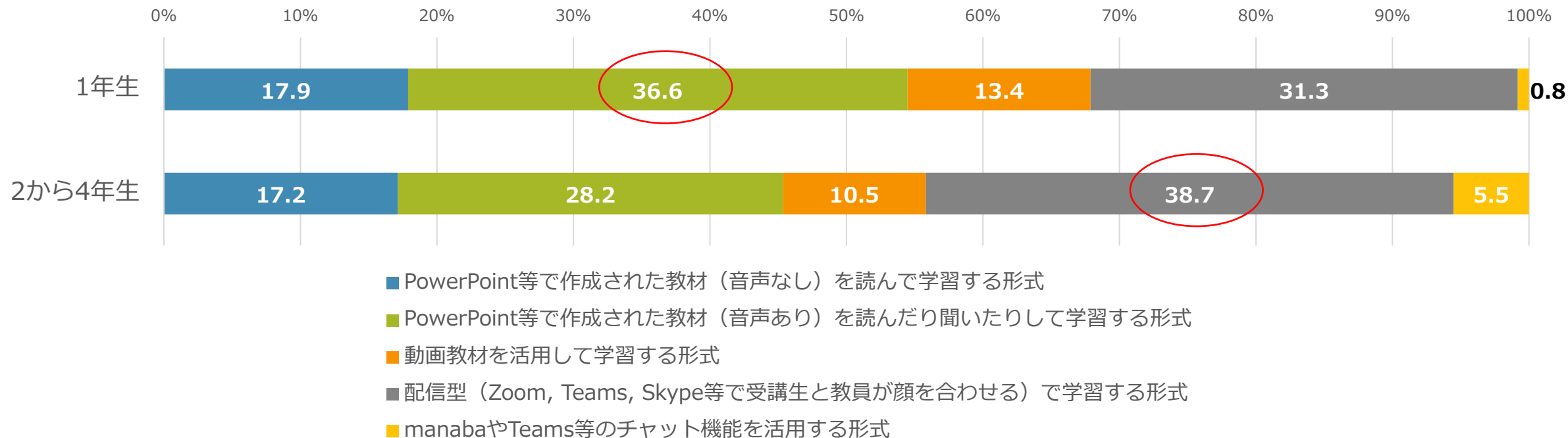


図11 最も学習効果を感じたオンライン授業の形式（%）

1年生では、「PowerPoint等で作成された教材を読んだり聞いたりする形式（音声あり）」の割合が最も高く、上級生は（ゼミ等の個別指導の機会が多いこともあるのか）「配信型で学習する形式」の割合が最も高い。

Ⅲ. 調査結果

・ 8-2. 最も学習効果を感じたオンライン授業の形式（学科別）

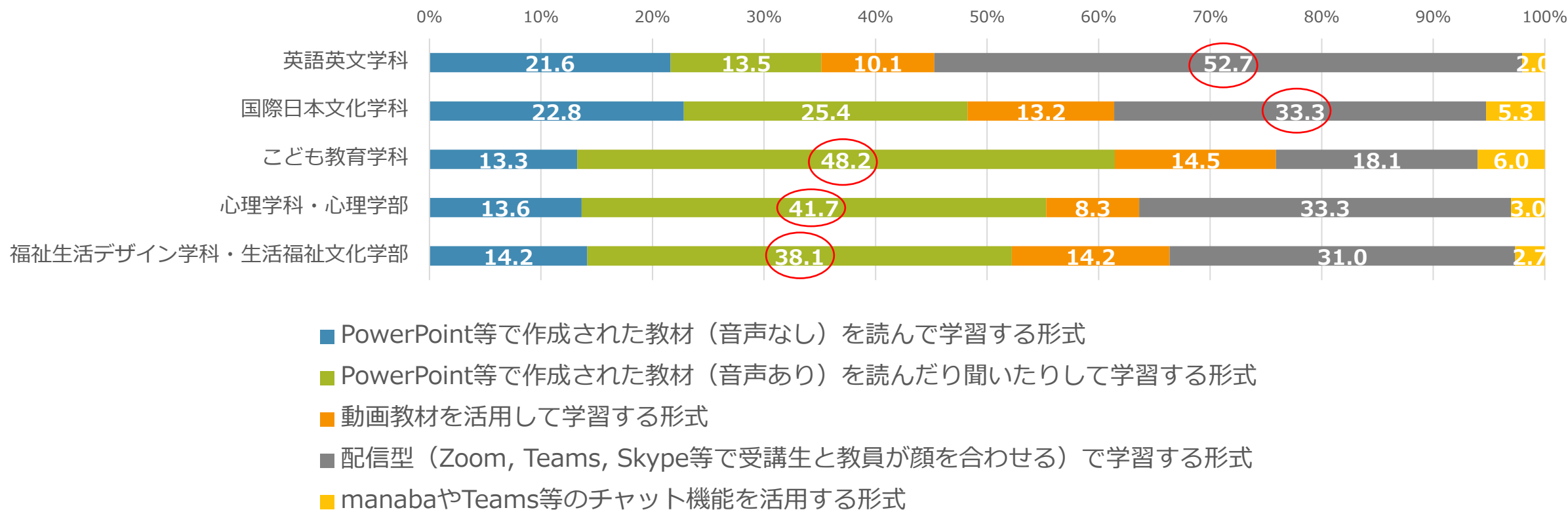


図12 最も学習効果を感じたオンライン授業の形式（学科別）（%）

全体としては、「PowerPoint（音声あり）の教材を読んだり聞いたりして学習する形式」の学習効果が高いが、配信型を選択した割合も高い。

Ⅲ. 調査結果

・ 9. オンライン授業では「課題」に対する何らかのフィードバックがあるか

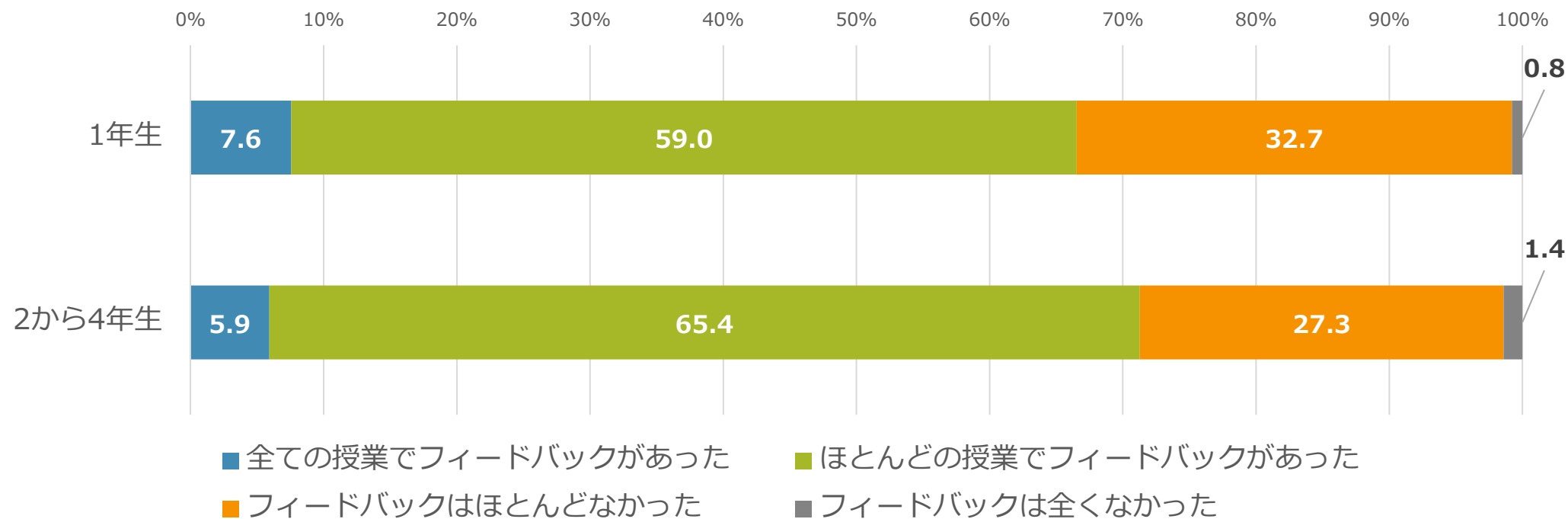


図13 フィードバックの有無 (%)

約3割の学生は、フィードバックがあまりなかったととらえている。

Ⅲ. 調査結果

・ 10. オンライン授業では「課題」や「振り返り」が提示されていたか

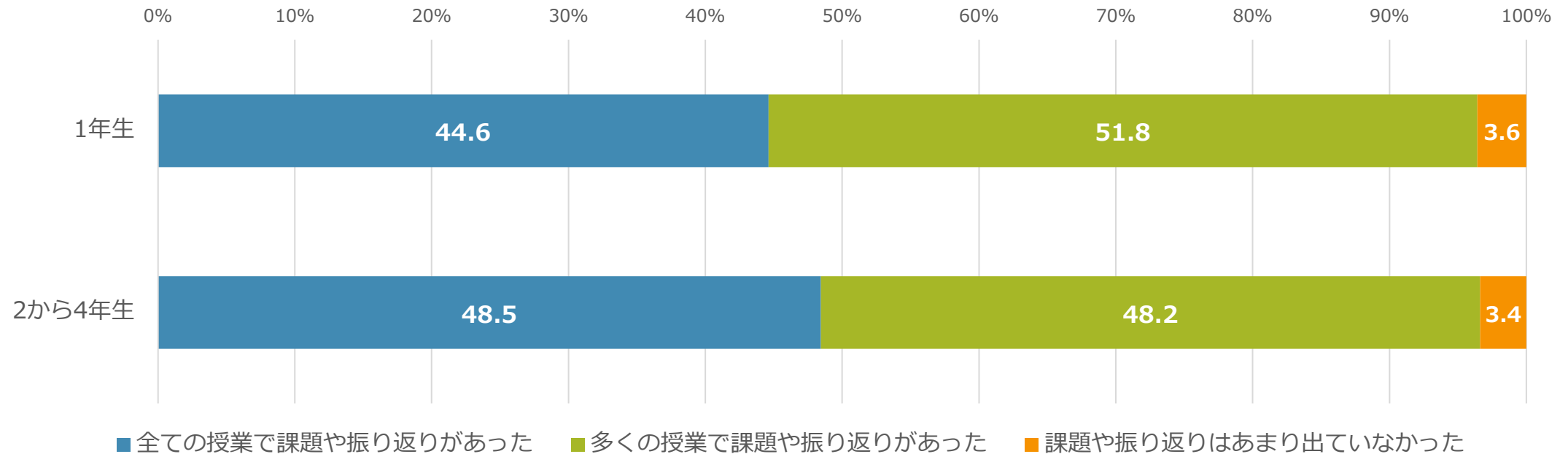


図14 課題・振り返りの有無 (%)

ほぼすべての授業で課題や振り返りが課されている。

Ⅲ. 調査結果

・ 11-1. 対面授業とオンライン授業を比較した場合の学習効果について

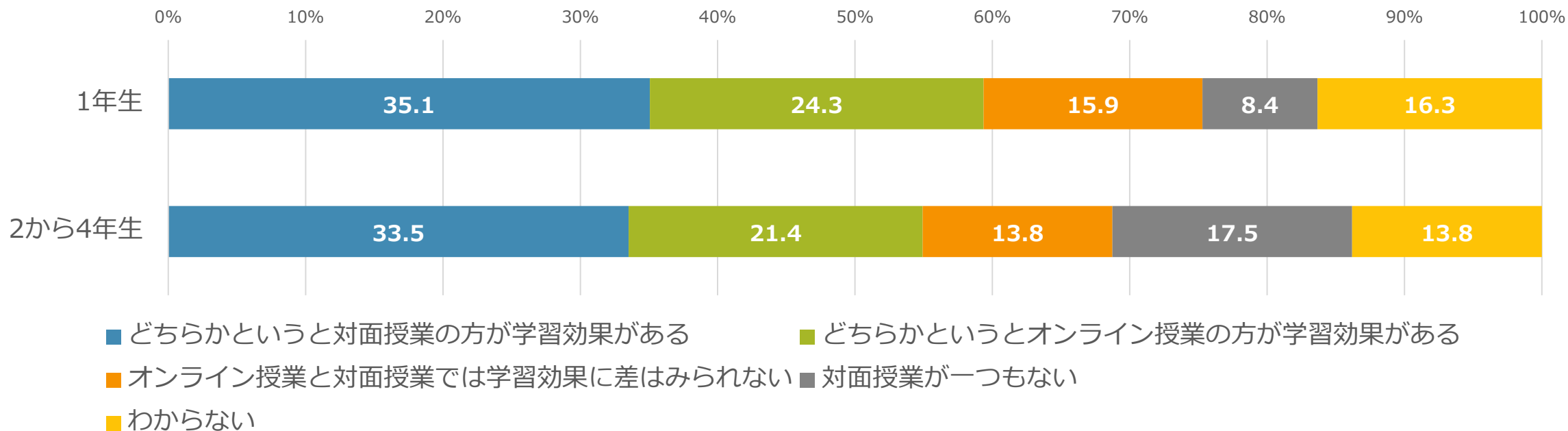


図15 学習効果の比較 (%)

いずれも、「どちらかというに対面授業の方が学習効果が高い」という割合が3割強と最も高いが、1年生、上級生とも、「どちらかというとオンライン授業の方が学習効果が高い」と「オンラインと対面授業では差がみられない」と回答した者を合わせると3割強～4割程度

Ⅲ. 調査結果

・ 11-2. 対面授業とオンライン授業を比較した場合の学習効果について（学科別）

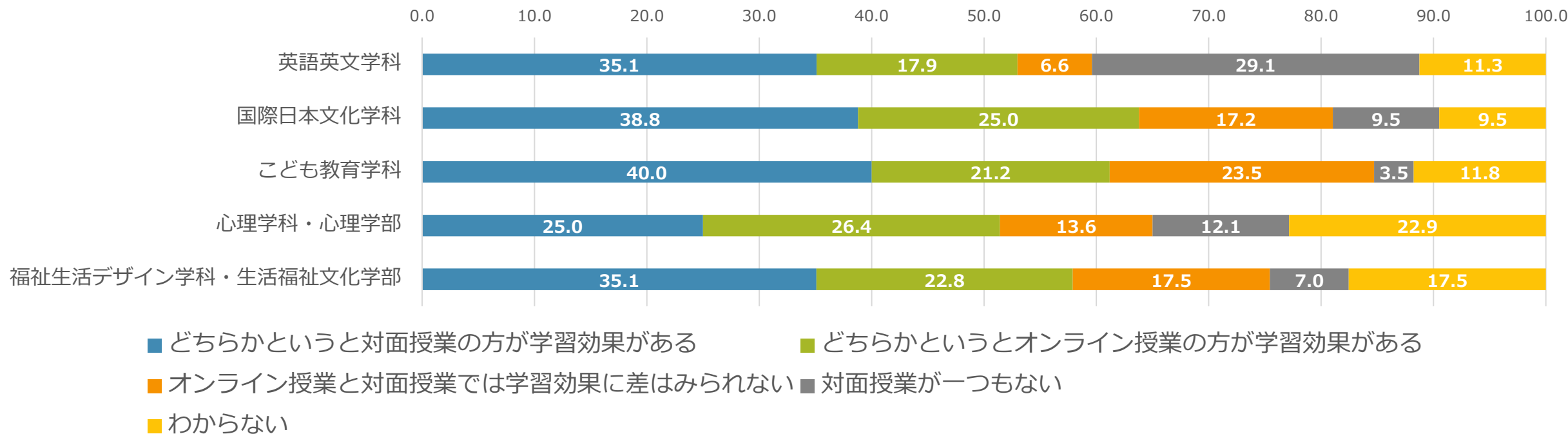


図16 対面授業とオンライン授業を比較した場合の学習効果について

英文科では「オンライン授業の方が学習効果がある」と回答した学生の割合が最も低い。国際日本文化学科でも、対面授業の方が効果があると回答した学生の割合が高いが、一方で、オンライン授業の方が効果がある、学習効果に差がみられないという回答を合わせると4割程度になった。こども教育学科と福祉生活デザイン学科では、対面授業の方が効果があると回答した学生の割合が比較的高いが、いずれの学科も、オンライン授業の方が効果があるおよび両者に学習効果は見られない、を合わせた割合は4割程度となっている。心理学科は5学科中、対面授業の方が学習効果があると回答した学生の割合が最も低い。

Ⅲ. 調査結果

- 12-1. 後期の授業について、対面授業とオンライン授業、どちらの割合が多いことを望むか

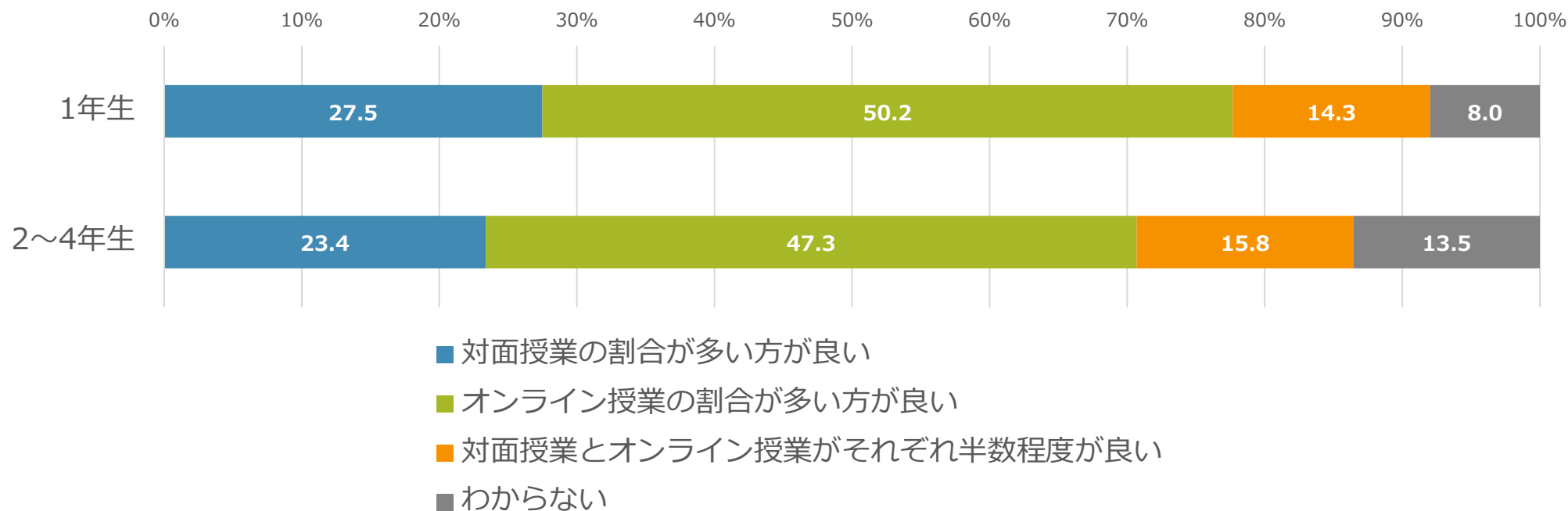


図17 後期授業形態の希望 (%)

「オンライン授業の割合が多い方がよい」の回答がいずれも約半数。

Ⅲ. 調査結果

- 12-2. 後期の授業について、対面授業とオンライン授業、どちらの割合が多いことを望むか（学科別）

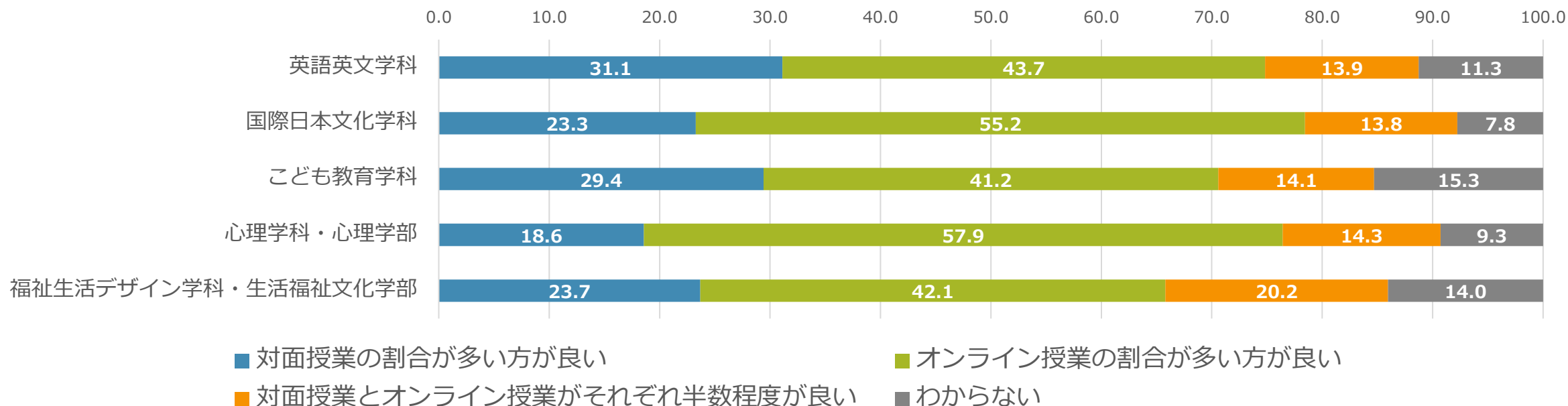


図18 後期授業履修形態（%）

調査を実施した時期の影響もあるのか、全体として「オンライン授業の割合が多い方が良い」と回答した学生が多い傾向がみられる。英語英文学科とこども教育学科では3割程度の学生が対面授業が多い方が良いと回答。

Ⅲ. 調査結果

・ 13. オンライン授業で困ったこと（複数選択）

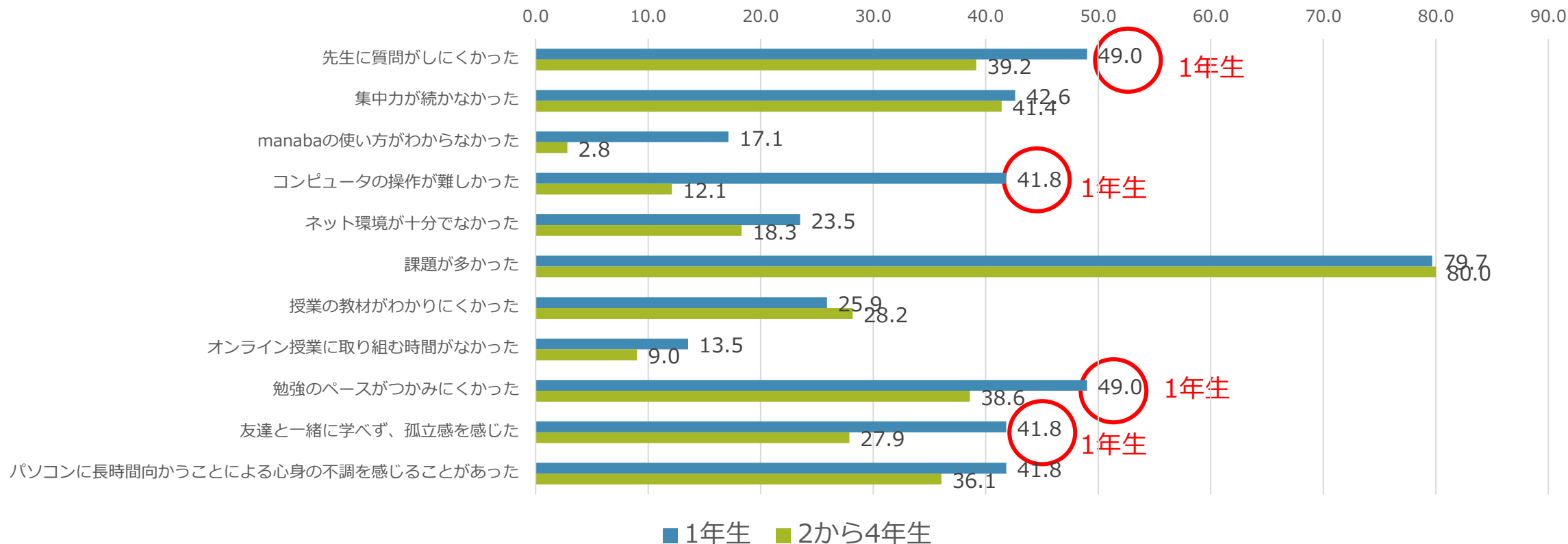


図19 オンライン授業で困ったこと (%)

いずれも「課題の多さ」を挙げるものが約8割で最も多かった。全体に1年生の方が「困ったこと」の選択率が高く、特に友達と一緒に学べないことの孤立感, 先生への質問のしにくさについて, 上級生との差が顕著にみられた。

Ⅲ. 調査結果

・ 14. オンライン授業で良かったと思うこと（複数選択）

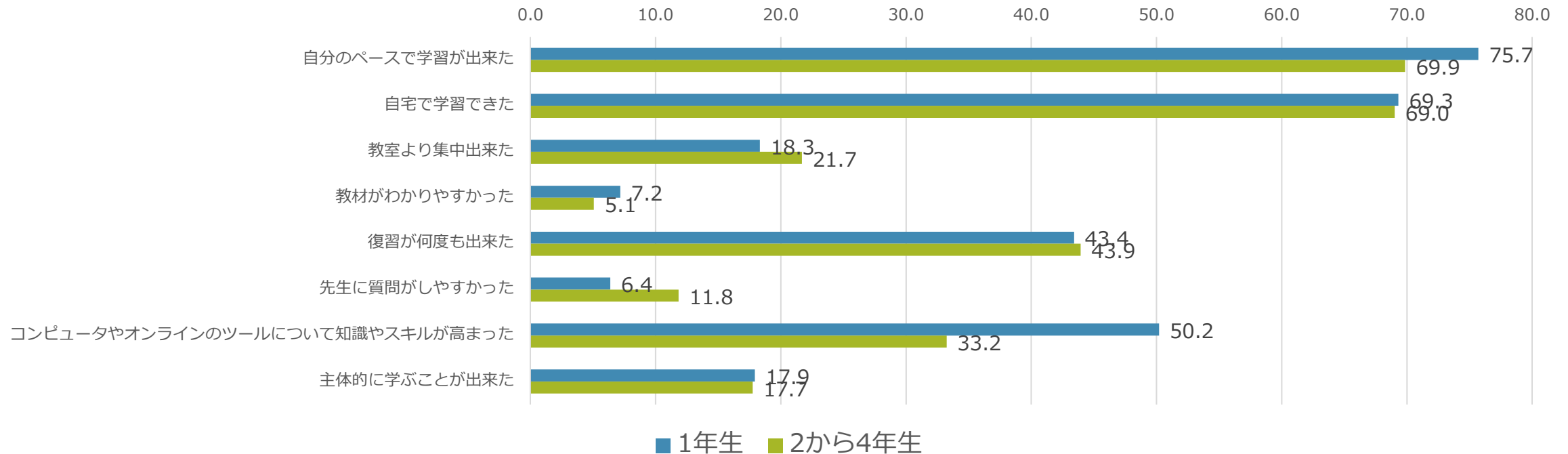


図20 オンライン授業で良かったと思うこと（%）

いずれも、自分のペースで、自宅で学習できることをメリットとして選択する者が多く、復習が何度も出来ることも全体として割合が高かった。また、1年生の約半数がコンピュータ操作の知識やスキルが高まったことを選択している。一方、教材のわかりやすさ、質問のしやすさ、についての割合は低く、課題が残る結果となっている。

Ⅲ. 調査結果

・ 15. 前期の生活スタイル

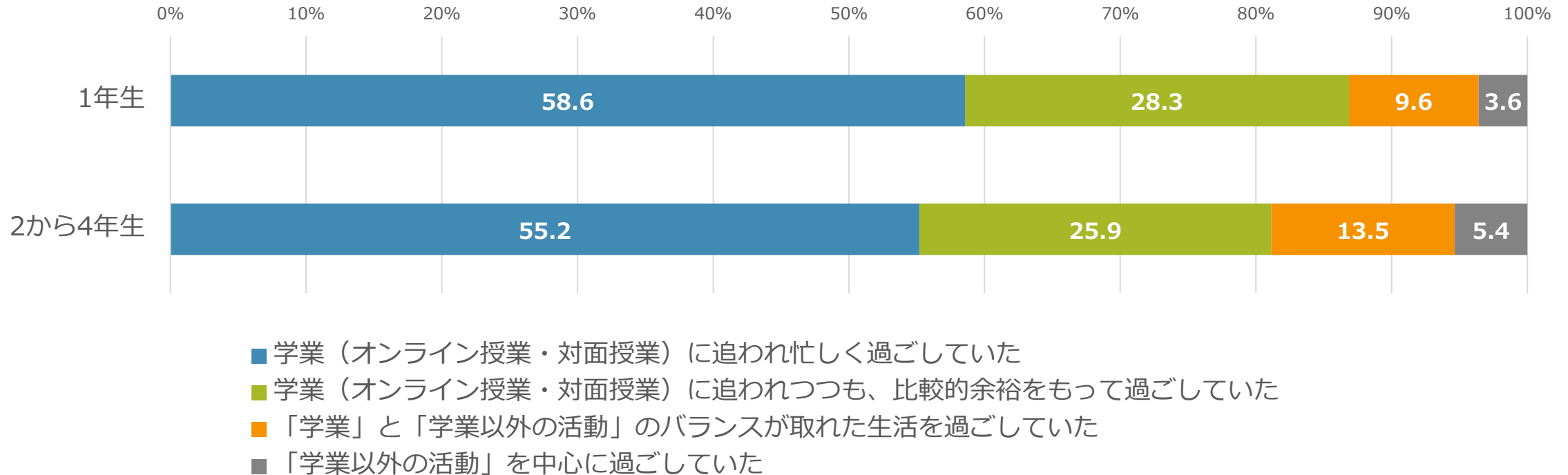


図21 前期の生活スタイル (%)

前期の間、いずれも約5割強～6割の学生は、オンライン授業を中心とした学業や課題に追われた生活を過ごしていた様子が見える。

Ⅲ. 調査結果

・ 16. 現在（7月末）の授業履修形態

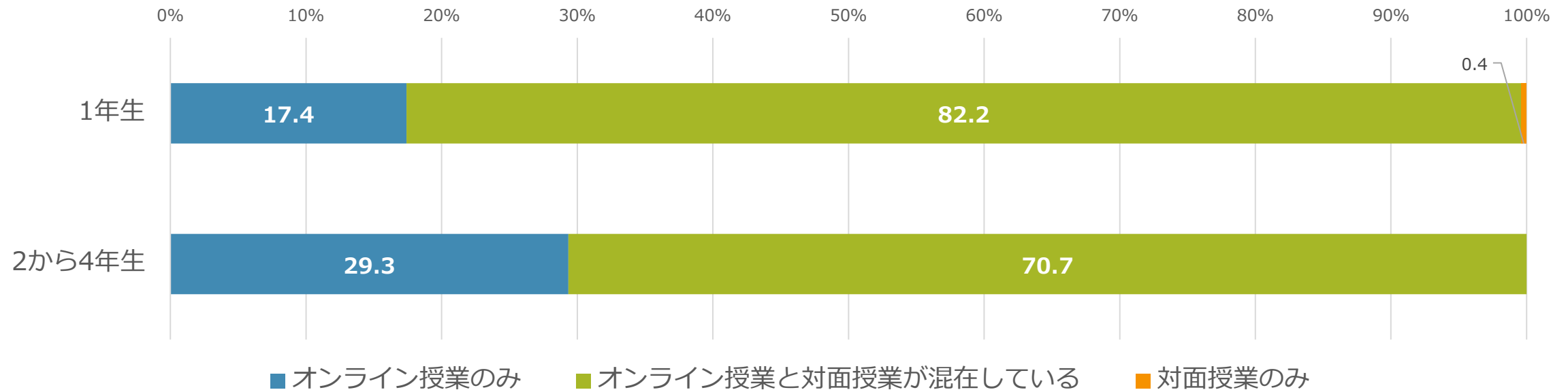


図22 授業履修形態 (%)

前期末の時点では、オンライン授業と対面授業が混在している学生が7～8割であった。上級生の方がややオンライン授業のみの割合が多い。

Ⅲ. 調査結果

- 17. あなたは大学通学中あるいは大学でのコロナウィルス感染についてどの程度不安に感じているか。

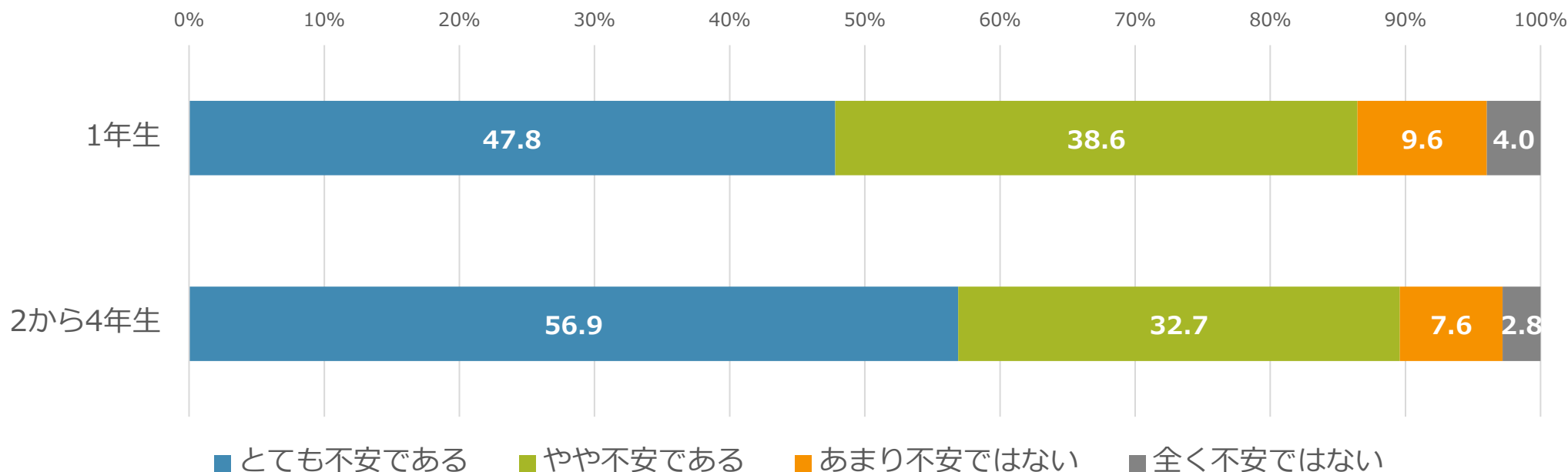


図23 コロナウィルス感染に対する不安 (%)

「とても不安である」「やや不安である」を合わせると、約9割。

Ⅲ. 調査結果

• 18-1. オンライン授業で学習効果があったと感じること（1年生）

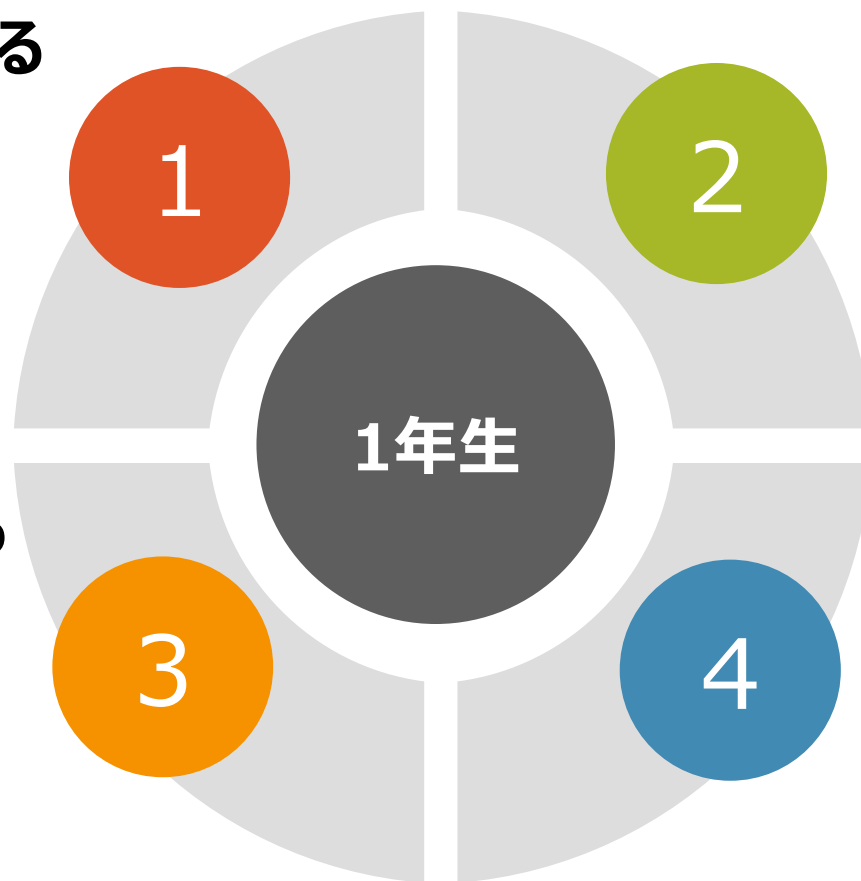
自由記述結果より回答数が多かった内容をポイントとして挙げる

繰り返し復習出来る

- ・復習が何度もできる
- ・復習しながらしっかりメモが取れた
- ・聞き逃したことも再度再生し、聞き直すことが出来た。

コンピュータのスキルが高まる

- ・PCスキルは確実に上がった。大学生として身につけるべきであるので、その点は良かったと思う。
- ・WordやPowerPointをよく授業で使用していたため、使い方を学ぶことができた。



自分のペースで学習出来る

- ・自分のペースで予習復習ができ、ゆっくりとそれぞれの講義の知識を得ることができた。
- ・自分のペースで学ぶことより記憶の定着がいつもよりあったと感じた

自主的・自律的な学習習慣

- ・分からないことがあった時にまず自分で調べるようになった。
- ・自主的に勉強する力が身に付いた
- ・自分から授業に参加しないことには勉強することが出来ないのでは主体的に学ぼうと出来るようになったと思う。

Ⅲ. 調査結果

・18-2. オンライン授業で学習効果があったと感じること（2～4年生①）

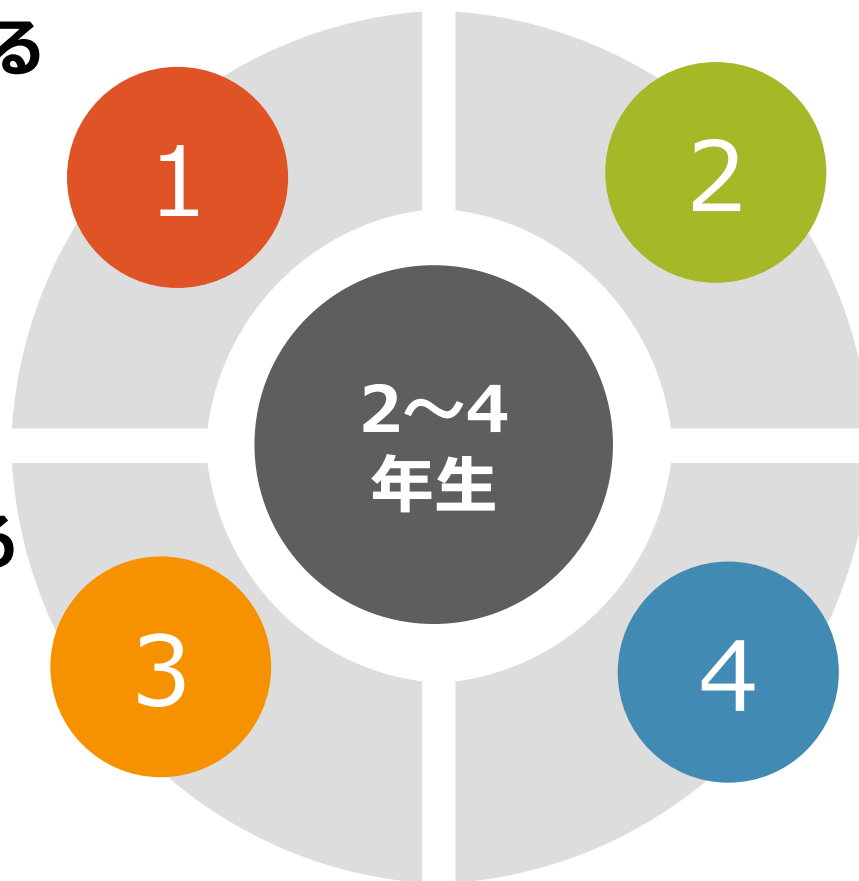
自由記述結果より回答数が多かった内容をポイントとして挙げる

繰り返し復習出来る

- ・授業資料や先生の音声を何度も見直せることができるため、対面授業の時よりも理解が深まったと感じた。
- ・リアルタイムで耳から入る情報を噛み砕くのが苦手なので、授業内容が全て資料として配布された事がとても良かった。

自分のペースで学習出来る

- ・自分のペースでできたので、理解が深まった。
- ・自分のペースで課題に取り組める。



主体的・計画的な学習

- ・自分から学ぶ姿勢が強くなった。
- ・分からないことがあれば主体的に調べるようになった。
- ・計画的に課題に取り組む姿勢が出来た。

コンピュータのスキル

- ・パソコンを使った実習関連は、自分で作業することで、身についたものが沢山あると感じた。
- ・コンピュータのスキルが高まった
- ・タイピングが早くなった

Ⅲ. 調査結果

・18-3. オンライン授業で学習効果があったと感じること（2～4年生②）

自由記述結果より回答数が多かった内容をポイントとして挙げる

課題により力がつく

- ・レポートの課題が増え、文章力が前よりついた。
- ・毎回課題があるので、理解力が深まった。
- ・課題があることで復習が出来た。

語学力の向上

- ・英会話力が上がった
- ・英語を話す頻度が増えた。
- ・Zoomで行ったため、先生方とパソコンを通じてとはいえ直接接することができ、英語力も上がりとても効果的だと思う。



話すことへの自信

- ・オンライン上で話す力が養われ、これからオンライン面接などが増えていくと予想されているため自信がついた。
- ・他の人と話すときに自分から発言することが増えた
- ・討論をしたりする授業は普通の授業より話しやすくいつもより自分の意見が言えた

集中できる

- ・対面より集中できる
- ・気が散ることなく集中できる

Ⅲ. 調査結果

- 19-1. オンライン授業で楽しく取り組めた授業，わかりやすかった授業
- 学生のアンケート結果で，「楽しく取り組めた，わかりやすかった授業」として複数の回答があった科目の先生に授業方法や学習効果についてお尋ねしました。

「キリスト教美術」はどのような授業か教えてください。



吉田朋子先生に
お聞きしました

キリスト教美術

共通教育科目
(カトリック教育科目)



西洋美術（特に絵画）ではどのようなキリスト教の主題が表現されるのか，基本的な知識を得る授業です。初めて見る作品の主題を推測できることが最終目標です。

オンライン授業期間，どのように授業を進めておられましたか？



- ・ オンデマンドのパワーポイント資料（音声なし）を使用しました。
- ・ 画像が多く，容量を減らすためPDF形式で配布しました。
- ・ 授業後にmanabaの小テスト（3問）を行いました。
- ・ 1枚当たり6スライドの印刷用PDFも配布（同じ内容ですが，スライドのサイズを小さくしたものです）。
- ・ 資料は，前回の小テストの解説と，授業内容の解説の2種類から構成していました。

Ⅲ. 調査結果

・ 19-2. オンライン授業で楽しく取り組めた授業，わかりやすかった授業

先生が授業において，学習効果を高める上で意識されていたことはどのようなことですか？



吉田朋子先生に
お聞きしました

キリスト教美術

共通教育科目
(カトリック教育科目)



- ・ 文字を大きくして見やすいフォントを使用。
- ・ 部分拡大図や地図などを活用。
- ・ 登録者数が多く，途中からはmanabaの自動採点機能を活用しましたが，最初は1人1人にコメントをしたり，採点をしながらフィードバックをしていました。
- ・ たまに設定をミスしましたが，自分の点数がすぐに出るのはやる気になるかなと思いました。

先生が嬉しかったオンライン授業での学生の反応や学習効果はどのようなことがありますか？



- ・ 最後のまとめテストで，よく授業内容を理解しつつ，自分の力で絵を観察して根拠を考えながら主題を推測している答案が多かったことは良かったです。

Ⅲ. 調査結果

・ 19-3. オンライン授業で楽しく取り組めた授業，わかりやすかった授業

逆に，オンライン授業で苦労された点がありますか？



・ 口頭だと冗談も言いやすいのですが，全てが残ってしまう資料なので，あまり下手なことは書けないなという点が難しかったです。



今後，先生の授業ではオンラインをどのように活用していられる予定ですか？



・ manabaの資料配布や小テストなどを活用したいと思います。
・ 特に，小テストの自動採点機能は，確実に最低限のフィードバックができるので，工夫してうまく使っていきたいと思います。



授業のことをお聞かせ頂き，ありがとうございました。



吉田朋子先生に
お聞きしました

キリスト教美術

共通教育科目
(カトリック教育科目)

Ⅲ. 調査結果

• 19-4. オンライン授業で楽しく取り組めた授業，わかりやすかった授業

- 学生のアンケート結果で、「楽しく取り組めた，わかりやすかった授業」として複数の回答があった科目の先生に授業方法や学習効果についてお尋ねしました。



金美仙先生に
お聞きしました

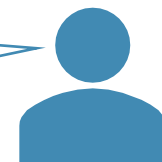
コリア語
共通教育科目
(外国語科目)

「コリア語」はどのような授業か教えてください。



コリア語(韓国語)という言語を学び、習得する授業です。
コリア語でコミュニケーションするために必要な言語知識
を学び、実践力を獲得します。韓国の文化紹介もします。

オンライン授業期間，どのように授業を進めておられましたか？



資料配信とライブ形式を併用しました（対面授業無し）。
資料配信（23回）：pptの音声入り動画ファイルを作成し，知識の習得
のための授業用に使用しました。
ライブ（7回）：実践会話練習及び口頭テストを行いました。

Ⅲ. 調査結果

・ 19-5. オンライン授業で楽しく取り組めた授業，わかりやすかった授業



金美仙先生に
お聞きしました

コリア語
共通教育科目
(外国語科目)

先生が授業において，学習効果を高める上で意識されていたことはどのようなことですか？



・ 文字と発音の習得・語彙力と実践力の向上
文字と発音：対面授業を想定し，動画を一時停止して書かせたり，発音の実演を丁寧に繰り返しました。
語彙力：毎回宿題やテストで覚えさせました。
実践力：少人数のライブ授業で対応しました。

先生が嬉しかったオンライン授業での学生の反応や学習効果はどのようなことがありますか？



知識の習得は期待以上の結果でした。
特に文法の学習は，対面授業では最初から拒否や甘えがあって苦労するのですが，思った以上に学習力が高いことがわかりました。ファイルを集中して見たり複数回閲覧したようです。

Ⅲ. 調査結果

• 19-6. オンライン授業で楽しく取り組めた授業，わかりやすかった授業



金美仙先生に
お聞きしました

コリア語
共通教育科目
(外国語科目)

逆にオンライン授業で苦労された点がありますか？



語彙を覚えさせることです。
学習者は「正しい」語彙の覚え方を知りません。
対面授業では，その覚える作業をサポートして大きな成果が
ありましたが，同等の効果を上げることができなかったと思
います。

今後，先生の授業ではオンラインをどのように活用し
ていかれる予定ですか？



基本的には，前期の「資料配信」と「ライブ」の併用のやり方を維持したい
ですが，覚えさせるためのライブ授業の割合を増やしたいです。
また，新たな挑戦として音読練習を行いたいですが，やり方は検討中です。

授業のことをお聞かせ頂き，ありがとうございました。



Ⅲ. 調査結果

・ 20. 「対面授業」と「オンライン授業」が同時に行われている状況で困っていること

自由記述結果より回答数が多かった内容をポイントとして挙げる

● 圧倒的に多かった回答

対面授業とライブ配信型授業の混在

(前期は対面授業が少なかったため)
少数の対面授業のためだけに大学に行かないといけないことに負担を感じる

オンライン授業(ライブ配信型)を受ける時の学習環境を考えると自宅の方が良いが、対面授業のために大学に行かなければいけなかった

オンライン授業と対面授業の出席の取り方を統一して欲しい

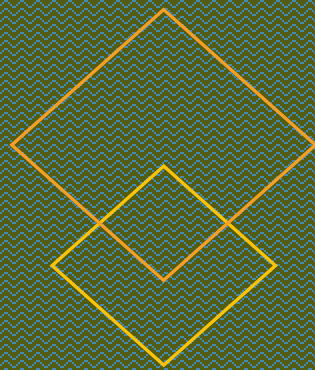
1~4
年生

対面授業が始まってからは、オンライン授業の課題に取り組む時間に取りにくく負担を感じる

どの授業が、またはどの回が対面授業で、オンライン授業なのかがわかりにくい

大学の発話OKのスタディスポットでは他の人の声も聞こえることがあり集中しにくい

コロナ感染のリスクを抱えながら通学することや授業を受けることに不安を感じる



IV 後期の授業に向けて

IV. 後期授業に向けて

★ 1年生には特に！

コンピュータスキルや
オンライン環境の確認



オンライン授業に関して困ったことについて、1年生と上級生との差が大きくみられた項目の一つが「コンピュータ操作の難しさ」に関するものである。

一方で、コンピュータやオンラインのスキルが高まったという回答も1年生に多く、コンピュータのスキルや知識については2極化している可能性もある。

後期にオンラインを用いた授業を行う場合、**後期授業開始時に学生のコンピュータスキル・オンライン環境を把握するアンケート等を行い、授業を進める上で、また授業の中で教員が課す課題に取り組む上でベースとなるスキルやオンライン環境があるのかを把握しておく必要がある。**

IV. 後期授業に向けて

★1年生には特に！

友達や先生との
関係性構築



オンライン授業期間、「友達と一緒に学べず、孤立感を感じた」という回答も上級生より1年生で多くみられた。

自由記述においても、前期は対面授業が少なく、友達がまだ出来ていないことを不安に感じている声が寄せられている。また、先生への質問のしにくさを挙げる回答も半数程度あった。

後期授業開始時には、初年次教育等の授業を中心に、学生同士および教員と学生との人間関係構築を意識する必要がある。

IV. 後期授業に向けて

いつでも何度でも
復習が出来る仕組みを
継続



学習効果に関する自由記述では、1年生、上級生ともに、manabaにアップされた教材や動画を「何度も繰り返し復習出来ること」を挙げる者が最も多く、復習が出来たことによる学びの深まりや授業理解に対する安心感につながるといった声が聞かれた。

このことから、対面授業に切り替わった場合においても、なるべく**授業期間中はmanabaで資料を閲覧出来るよう、そして、学生に修得させたい重要な事柄に関しては、動画や音声の資料をコンテンツに置き、いつでも復習出来る教材を用意する**ことが学生の授業理解につながるのではないかと推測される。

IV. 後期授業に向けて

授業理解につながる
課題提示



1年生，上級生ともにオンライン授業で困ったこととして「課題の多さ」を訴える者が約8割と圧倒的に多かった。

一方で，特に上級生では，課題を行うことが復習につながった，毎回課題をこなすことで理解力や文章力の獲得につながったという声も聞かれた。

このことから，**課題の量に見合う学習効果が得られているのかを見極めながら，適宜課題の量や質を調整**していくことが望ましい。

また「こまめに小さな課題があることが良かった」という回答があったが，**授業理解度を確認出来る様な課題やクイズ等の継続**，そして課題を課すだけでなく，**フィードバックが伴っていることが学生のモチベーション維持につながると考えられる。**

IV. 後期授業に向けて

学生の「自律的な学習」
をサポート



1年生，上級生ともに，自由記述において，自律的な学習習慣が身についた，積極的にわからないことを調べるようになったという回答が複数得られた。また，オンライン授業で良かったことについて，「主体的に学ぶことができた」という学生が，2割程度みられた。

対面授業とは異なり，オンライン授業では自分から取り組まないと学習が進まないため，このことにより学習習慣につながったり，また，授業での課題を毎回こなすことにより，まずは自分で調べたり，問題解決を行う習慣が身についたのではないかと推測される。

さらに，「自分のペースで学習出来る」という利点を挙げる学生も多かったことから，対面授業においても，**授業前後あるいはブレンド型の授業の一部として，学習者自らが自分のペースでしっかり考える学習機会を持たせる**ことが自律的な学習につながる可能性がある。

IV. 後期授業に向けて

授業への積極的参加



上級生は、ある程度教員や友人との人間関係も構築されている中でのオンライン授業であったため、対面授業よりもオンライン授業の方が「話しやすい」「発言が出来るようになった」と回答する学生もいた。

全国的な大学調査（朝日新聞・河合塾，2020）においても、オンライン授業を評価する意見が多かったのが、「授業参加への前向きな態度」であったとのことである。

一方で「先生への質問のしにくさ」を挙げる者も多かったため、**授業中のチャット機能の利用やrespon等を積極的に活用し、授業内容や方法に対する学生からの質問を受けやすい環境にすることが望まれる。**

IV. 後期授業に向けて

オンライン授業ではライブ配信は極力避け、ブレンド型では授業方法の明示を



配信型授業そのものの学習効果を高いと回答している学生は比較的多いものの、対面授業が一部開始されてから、**オンライン授業（特にライブ配信型）と対面授業が混在することに対する様々な不満や混乱が生じている**という意見が多数寄せられている。

このため、**オンラインを利用する授業では、極力「ライブ配信型」は避ける**（授業が録画され、オンデマンド化される場合は可）。

また、対面授業とオンライン授業を組み合わせる**ブレンド型の授業では、どの授業回が対面でオンラインなのかが確実に学生に伝わるように**することが望ましい。

IV. 後期授業に向けて 最後に

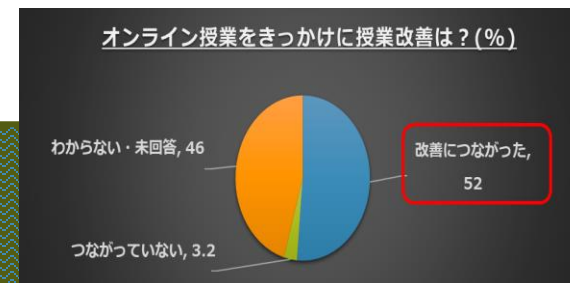
第1回目（2020年5月）のアンケートはオンライン授業開始直後に実施しましたが、今回は前期授業終了直前の7月に実施しました。6月からは一部の対面授業が開始されましたので、オンライン授業と対面授業を比較した際の学習効果も尋ねることが出来ました。

前回調査では、「オンライン授業における授業改善方法」というところに焦点を当てましたが、今回のアンケート結果からは、オンライン授業のみならず、対面授業の授業改善にも活かせるポイントが複数見出されています。例えば、「教材を何度も確認することが出来た」「毎回の課題をこなすことで授業理解が深まった」という意見は、「復習がしやすい授業づくり」「授業理解につながる課題提示」などを今後の授業方法を考えていく上で、大いに参考になったように思います。

コロナウィルス感染拡大により、大きな変革を迫られた大学教育ですが、諸々の課題もある一方で、右下の調査結果にも示されておりますように、多くの大学で「授業改善につながった」という実感があるようです。そして、本学のアンケート調査結果からもそれをうかがうことが出来ます。しかし、残念ながらオンライン授業にうまく取り組むことが出来ず、取り残されているように感じたり、授業の効果が見いだせなかった学生も大勢いると思われます。

後期は、その様な様々な思いを抱えた学生がいることを心に留め、特に大学に十分慣れていない1年生に対しては一日も早く本来の大学の授業や大学生活を楽しんでもらえるよう、今後も一人一人の学生の声、そして教職員間で情報共有しながら、より良い授業を目指していきたいと考えております。本調査に協力して頂いた多くの学生の皆様、ありがとうございました。

参考：朝日新聞と河合塾による「ひらく 日本の大学」緊急調査より（2020年6～7月に国公私立大学652大学を対象に実施された）





最後までお読み頂きありがとうございました

ご質問ご意見などございましたら、教務課までご連絡下さい。